



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	看護教育機関における学生の感染予防対策に関する調査（第2報）：B型肝炎について
Author(s)	平塚, 志保; 佐藤, 洋子; 森下, 節子 他
Citation	北海道大学医療技術短期大学部紀要, 12, 65-74
Issue Date	1999-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/37648
Type	departmental bulletin paper
File Information	12_65-74.pdf



原 著

看護教育機関における
学生の感染予防対策に関する調査
(第2報)

— B型肝炎について —

平塚 志保・佐藤 洋子・森下 節子・良村 貞子*

A Study of Infectious Disease Control Provided to Nursing School(Ⅱ):
Hepatitis B

Shiho Hiratsuka, Yoko Sato, Setsuko Morishita and Sadako Yoshimura*

Abstract

The purpose of this study is to determine the extent to which university nursing schools, junior college nursing schools, and midwifery nursing schools have implemented preventive means of safeguarding students against Hepatitis B. A nationwide survey was conducted by means of a questionnaire addressed to nursing schools. The results of the survey are as follows:

1. Eighty-five percent of nursing schools and 68.0% of midwifery schools educate their students about the necessity for antigen antibody tests for Hepatitis B; 78.4% of nursing schools and 52.0% of midwifery schools educate their students about the need for vaccination against Hepatitis B.
2. Antigen antibody testing for Hepatitis B was conducted at 72.2% of nursing schools and 64.0% of midwifery schools. Vaccination against Hepatitis B was provided to all students by 25.8% of nursing schools and 16.0% of midwifery schools.
3. Forty percent of nursing schools and 80% of midwifery schools adhere to a policy of not assigning students to hospital practicum in wards where patients test positive for Hepatitis B.
4. About 60% of nursing schools and midwifery schools responded by suggesting that vaccination for Hepatitis B is necessary for students.
5. About 50% of nursing schools and about 30% of midwifery schools provide infectious disease control manuals and maintain a reporting system.

北海道医療技術短期大学看護学科

* 旭川医科大学医学部看護学科

Department of Nursing, College of Medical Technology, Hokkaido University

* Department of Fundamental Nursing, School of Nursing, Asahikawa Medical College

It is clear that each nursing school, though recognizing the need to guard students against Hepatitis B, deals differently with prevention and student education regarding this disease.

We conclude that it is necessary to establish standardized preventative measures to safeguard against accidental infection of students during hospital practicum.

Key Words: Nursing School Students, Infections Disease Control, Hepatitis B

要 旨

第1報に引き続き、看護教育機関における学生に対するB型肝炎予防対策の実態を明らかにするために調査を行った。

1. 抗原抗体検査の必要性については、看護教育機関84.5%、助産婦教育機関68.0%、ワクチン接種は、看護教育機関78.4%、助産婦教育機関52.0%が教育していた。

2. 抗原抗体検査については、看護教育機関72.2%、助産婦教育機関64.0%、ワクチン接種は、看護教育機関25.8%、助産婦教育機関16.0%が学生全員を対象とし実施していた。

3. 実習中の受け持ちについては、看護教育機関40.2%、助産婦教育機関80.0%が原則としてB型肝炎等の患者を受け持たない方策をとっていた。

4. 約6割の看護教育機関および助産婦教育機関が、ワクチン接種が必要であると回答していた。

5. 事故等のマニュアルについて

感染事故等のマニュアルは看護教育機関では5割、助産婦教育機関では3割で整備されていた。

6. 結論

B型肝炎予防について、その必要性は認識しているが各大学の対応には差があった。実習に当たり、起こりうる事故を想定し、その予防対策と対応の確立が必要と考える。

I. 緒 言

1987年に厚生省からB型肝炎医療機関感染防止対策ガイドラインが出されて以来、医療従事者に対する予防対策が明確化され一定の効果を認めている。しかし、この中には医学部学生および看護学生、助産婦学生等は含まれておらず、その予防は各教育機関に委ねられた状態にある。

第1報に引き続き、看護系教育機関の実習における感染予防対策をより効果的に整備するための指針を検討するために、その前段階としてB型肝炎予防対策の実態について調査した。加えて実習中における感染等、事故発生時の対応について検討した。

II. 研究方法

1. 調査対象

文部省高等教育局医学教育課発刊による医療関係技術者養成学校一覧(平成10年5月1日)に掲載されている大学看護(学)科63校、短期大学看護(学)科85校(以下、看護教育機関)、および助産学専攻科35校(以下、助産婦教育機関)を対象とした。なお、看護教育機関では、学部、学科、専攻等の名称について一致していないが、以下の文中、および表では、看護(学)科と統一して明記する。助産婦教育機関も同様に専攻科と明記する。

2. 調査方法

質問票および依頼状を各教育機関の責任者（学科長）に送付し、後日郵送（一部電子メール）にて回収した。調査期間は平成11年5月～6月である。

このうち、回答が得られた122校（回収率66.7%）について集計した。なお、回収率、および回収校の内訳に関しては、第1報と同様である。

Ⅲ. 結 果

1. B型肝炎の予防対策について

1) 抗原・抗体検査およびワクチン接種の必要性についての教育（表1、表2）

B型肝炎抗原・抗体検査の必要性について「教育している」と回答した看護教育機関は82校（84.5%）、助産婦教育機関は17校（68.0%）であった。

ワクチン接種の必要性について「教育している」と回答した看護教育機関は76校（78.4%）であった。

他方、助産婦教育機関では13校（52.0%）で

あり、「対策をとっていない」と回答した機関が12校（48.0%）であった。

2) 抗原・抗体検査の実施（表3）

B型肝炎抗原・抗体検査について「学生全員が実施している」と回答した看護教育機関は70校（72.2%）であった。

4年制大学では、31校（79.5%）で実施されていた。このうち30校は費用負担が大学負担である。さらに、公立4年制大学8校ではすべて実施されており、費用は大学負担であった。

短期大学では、39校（67.2%）で実施されていた。このうち31校は費用負担が大学負担である。

他方、助産婦教育機関では16校（64.0%）で実施され、費用負担は大学負担である。

3) ワクチンの実施（表4）

ワクチン接種について「学生全員が実施している」と回答した看護教育機関は25校（25.8%）であった。任意実施もしくは指導をしている機関は28校（28.9%）であった。他方、対策をとっ

表1 B型肝炎抗原・抗体検査についての教育

	n	教育している		対策をとっていない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護（学）科	17	14	82.4%	2	11.8%	0	0.0%	1	5.9%
公立4年制大学看護（学）科	8	6	75.0%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護（学）科	14	14	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	34	87.2%	4	10.3%	0	0.0%	1	2.6%
国立短期大学看護学科	16	15	93.8%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%
公立短期大学看護（学）科	18	15	83.3%	2	11.1%	1	5.6%	0	0.0%
私立短期大学看護（学）科	24	18	75.0%	4	16.7%	0	0.0%	2	8.3%
短期大学総計	58	48	82.8%	6	10.3%	2	3.4%	2	3.4%
看護教育機関総計	97	82	84.5%	10	10.3%	2	2.1%	3	3.1%
国立短期大学専攻科	12	9	75.0%	3	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	4	66.7%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	17	68.0%	8	32.0%	0	0.0%	0	0.0%

表2 B型肝炎ワクチンについての教育

	n	教育している		対策をとっていない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護(学)科	17	13	76.5%	2	11.8%	0	0.0%	2	11.8%
公立4年制大学看護(学)科	8	4	50.0%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護(学)科	14	13	92.9%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	30	76.9%	7	17.9%	0	0.0%	2	5.1%
国立短期大学看護学科	16	15	93.8%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%
公立短期大学看護(学)科	18	13	72.2%	3	16.7%	2	11.1%	0	0.0%
私立短期大学看護(学)科	24	18	75.0%	4	16.7%	0	0.0%	2	8.3%
短期大学総計	58	46	79.3%	7	12.1%	3	5.2%	2	3.4%
看護教育機関総計	97	76	78.4%	14	14.4%	3	3.1%	4	4.1%
国立短期大学専攻科	12	6	50.0%	6	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	3	50.0%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	13	52.0%	12	48.0%	0	0.0%	0	0.0%

表3 B型肝炎抗原・抗体検査の実施

	n	学生全員が実施している*		任意実施もしくは指導		対策をとっていない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護(学)科	17	11	64.7%	2	11.8%	2	11.8%	1	5.9%	1	5.9%
公立4年制大学看護(学)科	8	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護(学)科	14	12*	85.7%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	31	79.5%	4	10.3%	2	5.1%	1	2.6%	1	2.6%
国立短期大学看護学科	16	9*	56.3%	2	12.5%	5	31.3%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学看護(学)科	18	16*	88.9%	1	5.6%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学看護(学)科	24	14*	58.3%	3	12.5%	5	20.8%	1	4.2%	1	4.2%
短期大学総計	58	39	67.2%	6	10.3%	11	19.0%	1	1.7%	1	1.7%
看護教育機関総計	97	70	72.2%	10	10.3%	13	13.4%	2	2.1%	2	2.1%
国立短期大学専攻科	12	7*	58.3%	1	8.3%	3	25.0%	1	8.3%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	4	66.7%	0	0.0%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	5	71.4%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	16	64.0%	2	8.0%	5	20.0%	2	8.0%	0	0.0%

* 1：注釈がない限り、学校単位で実施し、費用は大学負担である。

* 2：費用負担は1校が学生負担。

* 3：費用負担は3校が学生負担。

* 4：費用負担は2校が学生負担。

* 5：費用負担は3校が学生負担。なお1校は学生個人が受診する方策をとる。

* 6：費用負担は4校が学生負担。なお1校は学生個人が受診する方策をとる。

表4 B型肝炎ワクチンの実施

	n	学生全員が実施している*1		任意実施もしくは指導		対策をとっていない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護（学）科	17	4*2	23.5%	3	17.6%	8	47.1%	1	5.9%	1	5.9%
公立4年制大学看護（学）科	8	1	12.5%	5	62.5%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護（学）科	14	4*3	28.6%	6	42.9%	4	28.6%	0	0.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	9	23.1%	14	35.9%	14	35.9%	1	2.6%	1	2.6%
国立短期大学看護学科	16	4*4	25.0%	5	31.3%	7	43.8%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学看護（学）科	18	7	38.9%	2	11.1%	9	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学看護（学）科	24	5*5	20.8%	7	29.2%	11	45.8%	0	0.0%	1	4.2%
短期大学総計	58	16	27.6%	14	24.1%	27	46.6%	0	0.0%	1	1.7%
看護教育機関総計	97	25	25.8%	28	28.9%	41	42.3%	1	1.0%	2	2.1%
国立短期大学専攻科	12	2*6	16.7%	4	33.3%	6	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	1	16.7%	1	16.7%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	1*7	14.3%	4	57.1%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	4	16.0%	9	36.0%	12	48.0%	0	0.0%	0	0.0%

*1：注釈がない限り、学校単位で実施し、費用は大学負担である。

*2：費用負担は2校が学生負担、1校が後援会負担。

*3：費用負担は2校が学生負担。

*4：費用負担は3校が学生負担。

*5：費用負担は2校が学生負担。

*6：費用負担は2校とも学生負担。

*7：費用負担は学生負担。

ていない機関は41校（42.3%）であった。

4年制大学では、9校（23.1%）で実施されていた。このうち4校は費用負担が大学負担、4校が学生の個人負担、1校が後援会負担である。

短期大学では、16校（27.6%）で実施されていた。このうち11校は費用負担が大学負担、5校が学生の個人負担である。

他方、助産婦教育機関では4校（16.0%）で実施され、費用負担は学生の個人負担である。なお、任意実施もしくは指導をしている機関は9校（36.0%）であった。

4）実習中におけるB型肝炎患者の受け持ちについて（表5）

実習中に学生が「原則としてB型肝炎患者を

受け持たない」方策をとっている看護教育機関は39校（40.2%）、助産婦教育機関は20校（80.0%）であった。また、「協議の上受け持つ」と回答した看護教育機関は20校（20.6%）、助産婦教育機関は4校（16.0%）であった。なお、「取り決めがない」と回答した看護教育機関は34校（35.1%）、助産婦教育機関は1校（4.0%）のみであった。

5）実習中における事故経験（血液感染）の有無（表6）

過去5年間程度における学生の実習中における血液感染に関する事故について、「経験がある」と回答した看護教育機関は22校（22.7%）、助産婦教育機関は6校（24.0%）であった。

表5 実習中におけるB型肝炎等患者の受け持ちについて

	n	原則として 受け持たない		協議の上 受け持つ		取り決めは していない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護（学）科	17	5	29.4%	3	17.6%	7	41.2%	1	5.9%	1	5.9%
公立4年制大学看護（学）科	8	4	50.0%	1	12.5%	2	25.0%	0	0.0%	1	12.5%
私立4年制大学看護（学）科	14	3	21.4%	5	35.7%	6	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	12	30.8%	9	23.1%	15	38.5%	1	2.6%	2	5.1%
国立短期大学看護学科	16	6	37.5%	5	31.3%	5	31.3%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学看護（学）科	18	8	44.4%	4	22.2%	6	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学看護（学）科	24	13	54.2%	2	8.3%	8	33.3%	0	0.0%	1	4.2%
短期大学総計	58	27	46.6%	11	19.0%	19	32.8%	0	0.0%	1	1.7%
看護教育機関総計	97	39	40.2%	20	20.6%	34	35.1%	1	1.0%	3	3.1%
国立短期大学専攻科	12	8	66.7%	3	25.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	5	83.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	20	80.0%	4	16.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%

表6 実習中における過去の事故経験（血液感染に関する）の有無

	n	経験有り		経験無し		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護（学）科	17	2	11.8%	13	76.5%	2	11.8%
公立4年制大学看護（学）科	8	1	12.5%	7	87.5%	0	0.0%
私立4年制大学看護（学）科	14	7	50.0%	7	50.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	10	25.6%	27	69.2%	2	5.1%
国立短期大学看護学科	16	5	31.3%	10	62.5%	1	6.3%
公立短期大学看護（学）科	18	1	5.6%	17	94.4%	0	0.0%
私立短期大学看護（学）科	24	6	25.0%	17	70.8%	1	4.2%
短期大学総計	58	12	20.7%	44	75.9%	2	3.4%
看護教育機関総計	97	22	22.7%	71	73.2%	4	4.1%
国立短期大学専攻科	12	4	33.3%	8	66.7%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	1	14.3%	6	85.7%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	6	24.0%	17	68.0%	0	0.0%

6) B型肝炎ワクチンの必要性（表7）

学生に対しB型肝炎ワクチンの接種が「必要である」と回答した看護教育機関は58校

（59.8%）、助産婦教育機関では14校（56.0%）

であった。他方、「どちらともいえない」と回答した看護教育機関は32校（33.0%）、助産婦

看護教育機関における学生の感染予防対策に関する調査（第2報）

表7 学生へのB型肝炎ワクチン接種の必要性に対する各大学の見解

	n	必要がある		どちらともいえない		不必要である		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護（学）科	17	9	52.9%	4	23.5%	0	0.0%	4	23.5%
公立4年制大学看護（学）科	8	6	75.0%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護（学）科	14	9	64.3%	5	35.7%	0	0.0%	0	0.0%
4年制大学総計	39	24	61.5%	11	28.2%	0	0.0%	4	10.3%
国立短期大学看護学科	16	12	75.0%	3	18.8%	1	6.3%	0	0.0%
公立短期大学看護（学）科	18	9	50.0%	9	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学看護（学）科	24	13	54.2%	9	37.5%	1	4.2%	1	4.2%
短期大学総計	58	34	58.6%	21	36.2%	2	3.4%	1	1.7%
看護教育機関総計	97	58	59.8%	32	33.0%	2	2.1%	5	5.2%
国立短期大学専攻科	12	8	66.7%	3	25.0%	1	8.3%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	5	83.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	1	14.3%	6	85.7%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	14	56.0%	10	40.0%	1	4.0%	0	0.0%

表8 実習中の事故等の対応マニュアルについて

	n	対応マニュアルがある		対応マニュアルはない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護（学）科	17	11	64.7%	2	11.8%	4	23.5%	0	0.0%
公立4年制大学看護（学）科	8	3	37.5%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護（学）科	14	10	71.4%	1	7.1%	3	21.4%	0	0.0%
4年制大学総計	39	24	61.5%	6	15.4%	9	23.1%	0	0.0%
国立短期大学看護学科	16	10	62.5%	4	25.0%	2	12.5%	0	0.0%
公立短期大学看護（学）科	18	7	38.9%	7	38.9%	4	22.2%	0	0.0%
私立短期大学看護（学）科	24	12	50.0%	7	29.2%	4	16.7%	1	4.2%
短期大学総計	58	29	50.0%	18	31.0%	10	17.2%	1	1.7%
看護教育機関総計	97	53	54.6%	24	24.7%	19	19.6%	1	1.0%
国立短期大学専攻科	12	2	16.7%	7	58.3%	3	25.0%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	2	33.3%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	8	32.0%	14	56.0%	3	12.0%	0	0.0%

教育機関は10校（40.0%）であった。

（表8）

2. 感染事故等の対応について

1) 感染事故等の対応マニュアルについて

感染事故等の「対応マニュアルがある」と回答した看護教育機関は53校（54.6%）、助産婦教育機関は8校（32.0%）であった。なお、「そ

の他」の回答において、大学独自の対応マニュアルはないが実習病院等で使用されているものを準用するという回答、および現在検討中であるという回答が多く認められた。

2) 事故等の報告システムについて (表9)

感染事故等の「報告システムがある」と回答した看護教育機関は64校 (66.0%)、助産婦教育機関は14校 (56.0%) であった。なお、「その他」の回答の中にはシステム化には至っていないが連絡経路が明確であるという回答が多く認められた。

IV. 考 察

1. B型肝炎抗原・抗体検査、ワクチンの実施、およびその必要性について

1994年に行われた森下ら¹⁾の調査 (回収率55%, 看護大学, 短期大学, 3年課程の専門学校268校を対象としている) によると, B型肝炎予防対策として抗原検査, 抗体検査およびワクチン接種の実施率は, それぞれ80%, 70%, 29%と報告されている。上記調査から5年を経

て, 看護教育が大学化され, 今回の調査は, 抗原検査と抗体検査を分けた設問ではないが, ほぼ同様の実施率であった。

ワクチン接種については, 看護教育機関において約8割がその教育をしているにも関わらず, 学生に対してのワクチン接種の必要性を肯定する回答は約6割であった。上述, 森下らの調査では, ワクチン接種を実施しない理由として, その必要性の認識の低い学校ほど「学生が感染の危険が少ないこと」および「学生自身が注意することにより予防できること」という理由が多いことが報告されている。しかし, B型肝炎等の事故経験を有する教育機関が2割を越えており, 感染事故は十分な対策を実施したとしても完全には予防できないこと²⁾より, そのワクチンの実施は必要と考える。

他方, ワクチン接種を不必要と回答した教育機関は看護教育機関では2校 (2.1%), 助産婦教育機関では1校 (4.0%) のみであった。1995年に行われた蒲池ら³⁾の調査 (回収率53.8%, 看護大学, 短期大学, 3年課程の専門学校を対象としている) では, 「ワクチン接種の必要性

表9 実習中の事故等の報告システムについて

	n	報告システムがある		報告システムはない		その他		無回答	
		校数	比率	校数	比率	校数	比率	校数	比率
国立4年制大学看護 (学) 科	17	14	82.4%	0	0.0%	3	17.6%	0	0.0%
公立4年制大学看護 (学) 科	8	5	62.5%	1	12.5%	2	25.0%	0	0.0%
私立4年制大学看護 (学) 科	14	11	78.6%	1	7.1%	2	14.3%	0	0.0%
4年制大学総計	39	30	76.9%	2	5.1%	7	17.9%	0	0.0%
国立短期大学看護学科	16	9	56.3%	2	12.5%	5	31.3%	0	0.0%
公立短期大学看護 (学) 科	18	7	38.9%	7	38.9%	4	22.2%	0	0.0%
私立短期大学看護 (学) 科	24	18	75.0%	3	12.5%	2	8.3%	1	4.2%
短期大学総計	58	34	58.6%	12	20.7%	11	19.0%	1	1.7%
看護教育機関総計	97	64	66.0%	14	14.4%	18	18.6%	1	1.0%
国立短期大学専攻科	12	6	50.0%	6	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
公立短期大学専攻科	6	3	50.0%	2	33.3%	1	16.7%	0	0.0%
私立短期大学専攻科	7	5	71.4%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%
助産婦教育機関総計	25	14	56.0%	10	40.0%	1	4.0%	0	0.0%

がある」と回答した養成機関が37.6%、「必要がない」と回答した養成機関が22.4%であることを報告している。調査対象の相違はあるが、1987年に厚生省からB型肝炎医療機関感染防止対策ガイドラインが出されて以来、その必要性についての意識は向上しつつあると考える。

他方、ワクチン接種について、それを実施しない理由として、必要性の認識の程度に関わらず「ワクチン接種の費用が高い」ことあげられていると報告されている^{1,3)}。今回の調査でも抗原・抗体検査に要する費用はほぼ大学が負担しているが、ワクチン接種については学生個人の負担もしくは任意接種とする大学が多かった。

医療従事者に対してはB型肝炎ワクチンの接種とそれに関連する諸検査の費用が予算化されているが、教育機関における学生に対する予防策は各大学の判断に任されている状況にある。ワクチン実施に伴う費用の問題は、学生が自主的に接種するのであれば、学生の自己負担で良いと考える。

2. 実習中におけるB型肝炎患者の受け持ちについて

上述した蒲池ら³⁾の調査ではB型肝炎患者を受け持たない方策をとる看護養成機関が2割程度であったが、今回の調査では看護教育機関において、4割が「原則として受け持たない」と回答していた。調査対象が異なるが、年々大学自身が学生を感染から守るための対策を講じていると考える。

他方、助産婦教育機関においては20校(80.0%)が「原則として受け持たない」と回答し、B型肝炎患者受持ちについて取り決めをしていない助産婦教育機関は1校のみであった。

助産婦課程の実習では血液に直接触れる機会が多いと考えられるが、1年間での教育期間では、ワクチン接種により抗体価を追跡すること

より、感染の危険のない患者を選択する方がより学生への感染予防対策として有効と判断されていると考える。

3. 抗原・抗体検査およびワクチン接種の必要性についての教育

上述したように、看護教育機関において、抗原・抗体検査およびワクチン接種についての教育は7～8割と高率であった。学生は、自己の感受性および抗原・抗体の保有状況を知ること、またキャリアが発見された場合は自己管理の指導が必要である。

助産婦教育機関においては、とくにワクチン接種の対する教育について看護教育機関ほど積極的な姿勢は認められなかった。しかし、将来的にも血液感染の機会が多いと考えられる助産婦教育課程においては、より積極的な教育が望まれる。

小林ら⁴⁾は、学生全員にB型肝炎の予防接種を行い、その理解度を調査し、学生は感染予防を目的とした予防接種の必要性は理解していても、予防接種を受けるという行動に対する意識は低く、積極性が高くはないことを報告している。他方、村嶋ら⁵⁾は在学中にワクチン接種を勧めても、学生のワクチン接種率は低いことを報告している。

学生が能動的にワクチン接種するという行動をとるためには、必要性の教育のみならず、より具体的な指導と学生が学習した感染予防対策を自己の健康管理に主体的に活用できる態度を育成することが必要と考える。

また、ワクチン接種による抗体獲得率はEngerix-B法によっても95.6-100%と報告されており⁶⁾、追加免疫を実施しても陽転しない場合があることを考慮し、ワクチン接種を有効にするためには、早期の接種と追跡調査が必要である。

4. 事故等の対応、報告について

上述、森下ら¹⁾の調査では、感染予防マニュアルがある看護養成機関は35%と報告されている。今回の調査においては感染等事故に対するマニュアルを持っている教育機関が5割を超え、各大学が自主的に整備に向かっていると考えられる。

感染等の事故発生時に迅速に適切な対応がなされるためには、教育機関として感染の危険が生じた場合の報告経路と暴露後の具体的手順を明確にし、さらに、関連施設と事前に連携をとっておくことが必要である。さらに、マニュアル等の整備は、学生に対しても医療従事者としての感染予防に対する意識を高め、動機づけになると思われる。

なお、今回の調査票の記載責任者は、自由記載としたが多くの教育機関より記名をいただいた。その責任者は、学科長、実習責任者、事務部門、学生部長、保健委員長、教務課、小児科医、母性もしくは小児看護学実習担当、健康管理センター等様々であった。実習を念頭においた系統的な感染予防システムを確立するために、学生の健康管理についての責任の所在はどこにあるのが望ましいかを含めて、各教育機関の情報交換が必要と考える。

V. 結 語

今回の調査において、B型肝炎予防についてはその必要性は認識しているが対応には差があると考えられた。とくにワクチン接種については費用の問題およびその効果の側面より、学生の任意接種としている機関が多いが、学生が主体的にワクチン接種を行動化できるためのより積極的な教育、指導が必要と考える。

今回の調査機関の中には、新設校が含まれており学生の実習が始まっていない機関があったが、実習開始前に予防対策と事故等の対応マニュアル、およびシステムの確立が必要であると考ええる。

謝 辞

調査に協力くださった各教育機関の皆様、そして実際に使用している感染予防対策等の資料、および事故報告等を送付してくださった皆様に深謝いたします。

引用文献

- 1) 森下路子, 蒲池千草, 今村桃子ほか: 看護学生のB型肝炎感染予防対策に関する調査報告, 日本公衆衛生誌, 45: 67-72, 1999.
- 2) 川名林治: 院内感染の特異性と感染防止の基本的考え方, 小児内科, 26: 1630-1635, 1994.
- 3) 蒲池千草, 森下路子, 今村桃子: 看護学生に対する感染症対策(その1) - B型肝炎予防対策とワクチン接種について -, 第26回看護学会集録(看護教育): 106-108, 1995.
- 4) 小林淳子, 山崎登志子, 荻原晴美ほか, B型肝炎予防接種に対する看護学生の態度, 東北大医短部紀要, 6: 113-120, 1997.
- 5) 村嶋正幸, 永見桂子, 河原宣子ほか, 看護学生のB型肝炎ワクチン接種状況, 三重県立看護短期大学部紀要, 17: 147, 1996.
- 6) 浦野美枝子, 宮川美恵, 上條綾子ほか: 抗体陰性の医学部と健康科学部学生に対する風疹, 麻疹, 肝炎ワクチン接種状況に関する研究, 医学と生物学, 132: 147-149, 1996.